

## 第32回 国連CEFACT フォーラム会議報告

2018年10月13日～10月20日

杭州（中国）

報告者：国連CEFACT日本委員会

一般社団法人サプライチェーン情報基盤研究会

菅又 久直

### 1. 会議日程：

10月13日（土） 東京発 杭州着

10月14日（日） 貿易円滑化とeビジネスサミット

国連CEFACTフォーラム開会式

10月15日（月）～10月19日（金） 国連CEFACTフォーラム

10月20日（土） 杭州発 東京着

### 2. 会議参加の目的：

国連CEFACTは、貿易手続の簡易化と電子ビジネスの促進、およびそれに関するグローバルなポリシーや技術仕様の制定を目的として設立された国連組織である。

小生は、国連CEFACT組織の中で、手法技術分野およびサプライチェーン分野の開発に貢献するとともに、今後のアジアおよび日本における電子ビジネス関連標準の推進方策を見通すことを目的に、一般財団法人日本貿易関係手続簡易化協会の依頼により第32回国連CEFACTフォーラムに参加した。今回のフォーラムは、国連CEFACTと中国標準化研究院（CNIS: China National Institute of Standard）が主催した。

本報告は、国連CEFACTフォーラムの内、小生が主に参画した審議を中心にまとめたものである。

### 3. 貿易円滑化とeビジネスサミット：

国連CEFACTフォーラムに先立ち、国連CEFACTの活動及び中国におけるeビジネスの最新状況を紹介するセミナが開催された。セミナの講演テーマは次の通り。

- 貿易手続標準の中国での適用
- 国連CEFACT概要
- 国連CEFACTの推奨するシングルウィンドウ
- UN/LOCODEについて
- 中国におけるシングルウィンドウ
- 中国と米国の貿易摩擦について
- 中国における最新の越境電子商取引
- 中国における越境電子商取引の将来

- 国連 CEFACT の技術体系
- 貿易取引におけるビッグデータの活用（アリババ）
- ブロックチェーンによる安全確保（テンセント）
- CNIS の標準化支援体制
- 国連 CEFACT トレーサビリティプロジェクト
- NEAL-NET による物流可視化
- 物流の標準化

#### **4. 第32回国連CEFACTフォーラム：**

25カ国及び多数の国際機関（UNECE, WCO, EU, BIC, FAO, IPCSAなど）より、登録ベースで約170名が参加した。アジアからは7カ国（日本、タイ、中国、インド、シンガポール、マレーシア、スリランカ）、日本からは次の11名が参加した。

祁答院包則	日本貿易関係手続簡易化協会
鈴木 耀夫	NPO法人観光情報流通機構
田中 幹夫	株式会社JR総研
遠城 秀和	NTTデータシステム技術株式会社
菅又 久直	国連CEFACT日本委員会・サプライチェーン情報基盤研究会
鬼頭 吉雄	SMDG
石井 真一	株式会社野村総合研究所
原田 直樹	株式会社野村総合研究所
浅野 昌和	GMOグローバルサイン株式会社
田中 正道	株式会社ウフル
古城 篤	株式会社ウフル株式会社野村総合研究所

#### **4.1 フォーラム審議体制：**

国連CEFACTフォーラムは、本年4月30日総会での新議長（Sue Provert (UK)）の選出により、次頁の体制となった。

フォーラムでは、PDA（Program Domain Area）ごとに会議が進められる。小生は、国際サプライチェーンPDA（サプライチェーン&購買ドメイン）、制度PDA（電子政府ドメイン）、手法・技術PDAおよびオーケストラレイション・フォーカルポイント主催のコンファレンスに参加した。

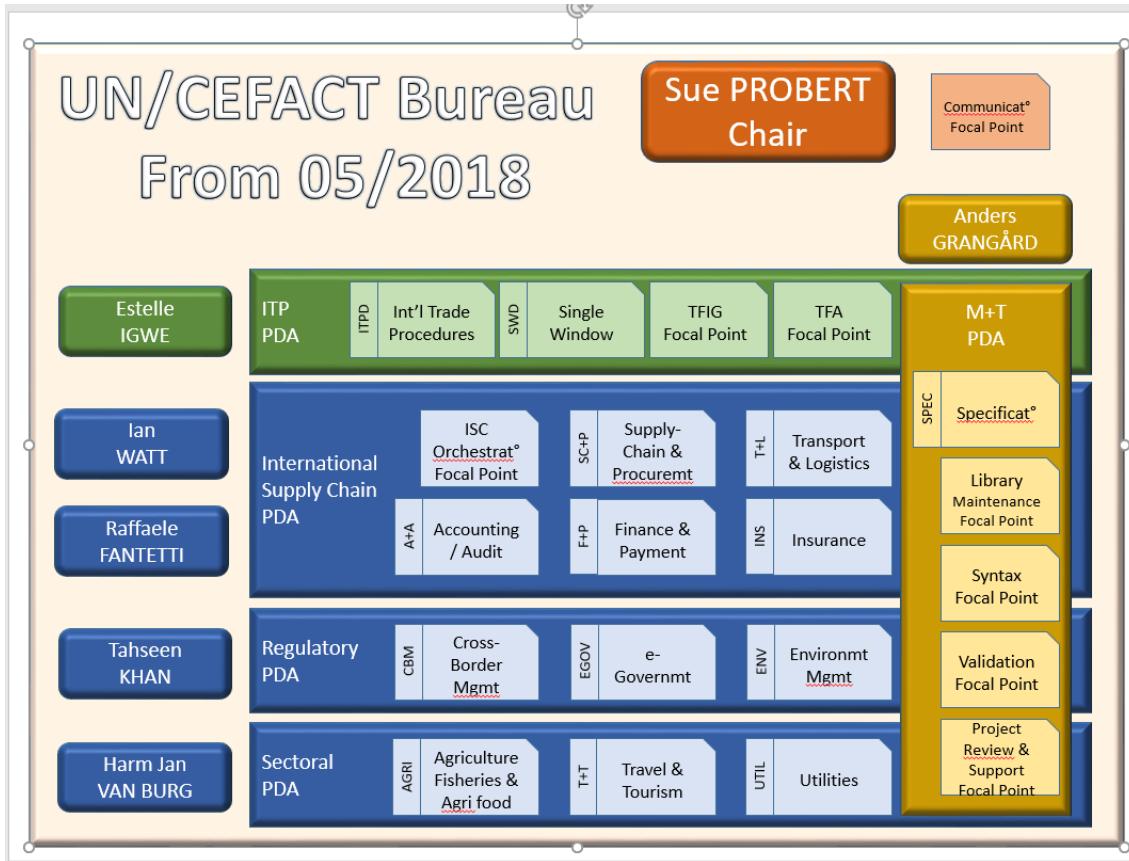
# UN/CEFACT Bureau

## From 05/2018

Sue PROBERT  
Chair

Communication<sup>®</sup>  
Focal Point

Anders  
GRANGÅRD



### 4.2 國際サプライチェーンPDA（サプライチェーン&購買ドメイン）

国際サプライチェーン PDA（担当副議長は Ian Watt（オーストラリア）のサプライチェーン&購買ドメイン（リーダーは Rolf Wessel）では、日本およびフランスが共同で進めていたスケジューリング・プロジェクトおよび新プロジェクト 3 件の審議を行った。

#### (1) スケジューリング・プロジェクト

当プロジェクトの製造 JIT プロセス部分は既に完成し、CCL18A に掲載済である。残りの VMI 用コンサンプション・レポート（フランス提案部分）につき BIE ハーモナイゼーションは完了していたが、メッセージ・スキーマ生成時に不必要的大量の BIE を参照していることが判明したため、その解決策（一部の ASBIE を削除）を検討し、合意した。これにより、CCL18B は公開可能な状況になった。

#### (2) サプライチェーン新規メッセージ提案

##### ① Quality Conformance Message

BAI (Boost Aero International) より、発注者・サプライヤー双方からの品質クレームの提示とその応答についての新規メッセージ開発が提案された。

##### ② Receiving Advice Message

同じく BAI より、Dispatch Advice に加え、Receiving Advice も独立に必要との要請があった。このメッセージは BAI では既に実装済であり、実装したものを利用標準化した

いとの意向である。

### ③ Track and Trace Message

農業分野では家畜の Track and Trace Message が既に登録済であるが、一般の物品にも適用したいとの要求である。

## 4.3 制度 PDA (電子政府 ドメイン)

制度 PDA (担当副議長は Tahseen Khan (インド) ) の電子政府 ドメイン (ドメインコーディネータは Kaushik Srinivasan) では、以下の審議が行われた。

### ➤ Mutual Recognition mechanism :

電子署名の認証局やデジタル ID の可用性など、越境貿易において多国間で合意形成が必要となる。そのための仕組みや合意書などにつき審議された。

### ➤ Whitepaper for IoT :

人間関係 IoT データの扱い (日本から提案) を含め、各種のユースケースに基づく IoT 白書の執筆が進められている。

### ➤ Digital ID for Trade :

個人や法人識別の ID 附番や管理につき各国の方法および状況はかなり異なっている。まずは、各国情事例の収集から行うこととなった。

### ➤ Data Retention : 各国行政データはデジタル化により益々増加している。それらにつき、どのような体制をとるべきか、またアーカイブはどうするかなど、まずは現状把握の審議が行われた。

### ➤ Artificial Intelligence for Trade Facilitation :

貿易円滑化分野における AI の活用分野につき、まずは IoT 白書に掲載することを目的に調査する。

### ➤ Global Privacy Laws : 欧州の GDPR 発行により各国のプライバシー保護体制の再検討が行われている。各国の取り組み状況につき紹介があった。

## 4.4 技術手法 PDA

PDA 担当副議長 Anders Grangard (GS1) のもと、次の 3 つのドメインが活動を行っている。

Specification Domain (コーディネータ : 菅又 久直)

Syntax Domain (コーディネータ : Gait Boxman)

Library Maintenance (フォーカルポイント : Mary Kay Blantz)

本フォーラムでは、Library Maintenance および Syntax Domain のリーダーが不在であり、Specification Domain 中心に審議が行われた。

- ① 辞書発行フォーマット : CCL の新たな公開形式として、XML4CCL および HTML が検討されている。CCTS のメタモデルを CCTS 自身の仕様により記述する手法がとられている。
- ② 標準文書ヘッダー (XHE: Exchange Header Envelope) : OASIS と共同で現行 SBDH (Standard Business Document Header) 標準を改訂しようとするプロジェクトで、SBDH (国連 CEFACT 標準) と BDE (Business Document Envelope) (OASIS 標準) の機能を双方盛り込んだガイドラインのドラフトが作成された。ただし、内容が CCTS に準拠していないとの理由から未だビューローの承認が得られていない。
- ③ XML メッセージ構築ガイドライン :  
小生（菅又）からの新プロジェクト提案（添付プロジェクト提案参考）で、次の成果物を策定する予定である。
  - XML メッセージ設計ガイドライン
  - MA、ASMA、MBIE およびユーザー・コードリストの公開ガイドライン
  - MA、ASMA、MBIE およびユーザー・コードリストの RSM 定義ガイドライン
  - ガイドラインに関連して必要な技術仕様の改訂プロジェクト提案
  - ユーザー定義 MA 仕様のエンドユーザー間交換手法プロジェクト提案当新プロジェクトはビューローに提出され、承認を待つ手はず。
- ④ ライブラリ・メインテナンス  
EDIFACT ディレクトリに対し 9 件の DMR (Directory Maintenance Request) が提出された。
  - Approved: 1
  - Approved with modification: 4
  - Postponed: 2
  - Rejected: 2

国連 CEFACT 共通辞書 (CCL18B) のメインテナンスは、メッセージ・スキーマ生成時に不必要的大量の BIE 参照問題が解決しだい、バリデーションが行われ公開される予定。今回の主なメインテナンス領域は、日本とフランスで進めてきたスケジューリング・プロジェクトの最終要求が含まれている。CCL18B の内容構成は次のようになる予定。

CC 7,861

BIE 12,644

Qdt 161

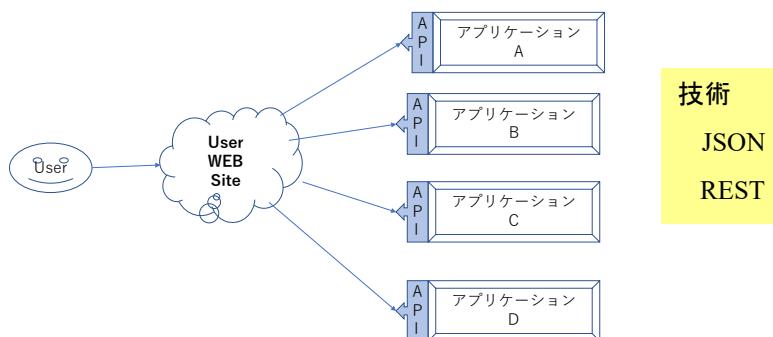
次回発行の共通辞書 (CCL19A) の提案締切は 2019 年 2 月 4 日（次回フォーラム（4 月 1 日の 8 週間前）である。

#### 4.5 オーケストラレイション（コンファレンス）

現状のデータ交換型 EDI から、クラウド上での情報共有型の仕組みへ進化させようと言う試みである。そのため、新たに ISCO (International Supply Chain Orchestration) ドメインが作られ、今回のフォーラムでオーストラリア政府の Steven Capell 氏がプレゼンを行った。

##### プログラマブル WEB の概念

- 多くの API が提供されており、それらを組み合わせることでユーザー固有のアプリケーションが組み立てられる。



- オーケストラレイションの構想は、国連 CEFACT 標準のメッセージに代わってユーザニーズに基づく API を各種整備して行こうとするものである。
- 次の 3 つの新規プロジェクトが提案された。
  - ・ RDM to API 手法プロジェクト：国連 CEFACT の参照データモデル（RDM）をベースに、state lifecycle を加えて RESTful API を策定する手法を公開する。
  - ・ サプライチェーン（B/S/P）API プロジェクト：RDM to API 手法を使って SCRDM（サプライチェーン参照データモデル）の API 仕様セットを策定する。
  - ・ 資源発見（Resource Discovery）プロジェクト：Web リソースを発見するプロトコルの策定。
- 従来の国連 CEFACT の手法（EDIFACT, ebXML）との関係、また手法技術 PDA との組織的な関係などにつき自由討議が行われたが、意見の統一には至っていない。

次回の会議予定は次の通り。

国連 CEFACT フォーラム（ジュネーブ）：2019 年 4 月 1 日～5 日

国連 CEFACT 総会（ジュネーブ）：2019 年 4 月 8 日～9 日

以上

添付

## UN/CEFACT Project Proposal (2<sup>nd</sup> Draft)

### Message Construction Guideline Project

Date: 2018-10-18

## 1. Project Purpose

For semantic interoperability in the field of Trade Facilitation and eBusiness, UN/CEFACT Technical Specifications and Libraries should be used more widely in the world.

There are several standard messages published in the UN/CEFACT library (Web site) which are designed to be used widely including general purpose business information entities and codelists.

The other hand, a user's application used with trading partners needs and can handle a part of information of the standard message. This causes frustration among users especially SMEs, such as;

- (1) It needs a large size standard message for the small set of information used in user's application.
- (2) Each user application has to handle a bunch of information defined in the standard message.
- (3) A user cannot predict the usable set of information in the standard message received.

Fortunately, we have the technical specification Core Component Business Document Assembly (CCBDA) which enables defining a subset of the standard message. This specification has the capability to solve the above issues.

However, there seems to be some difficulties to apply CCBDA specification for implementing restricted messages while keeping interoperability, as follows.

- ✓ No clear rules for restrictions of MBIE.
- ✓ No rules for identifier of MA, MBIE.
- ✓ No assembly rules for Internal Schema used for MBIEs.
- ✓ No rules for restricting code lists.
- ✓ No publication rules for MA.

Further more;

- ✓ Considering the new RSM template describing MBIEs.
- ✓ Considering the namespace for MBIEs.
- ✓ Considering the relation with XHE (Exchange Header Envelope) specification.

It is desirable to take careful guidance for message implementations based on CCBDA specification to keep interoperability among EDI users.

This project introduces the guidelines how to define a Message Assembly (MA) constructed with Message Business Information Entities (MBIE) and Qualified Data Type (QDT).

## **2. Project Scope**

The guidelines introduces the method to design an UN/CEFACT XML user message using MA, MBIE and QDT under the rules of CCTS, CCBDA and XML NDR which are UN/CEFACT technical specifications.

## **3. Project deliverables**

- a. XML Message design guidelines for CCBDA
- b. Publication guidelines for MA, MBIE, restricted code lists
- c. RSM guidelines for messages using MA, ASMA, MBIE and/or restricted code lists
- d. Requirements for amendment to related technical specifications, if any
- e. Requirements for exchanging the user construct of MA, if any

## **4. Exit criteria**

- a. The project deliverables (a-c) approved by the Bureau.
- b. The project proposal for requirements (d-e), if applicable.

## **5. Project Team membership**

The project team is open to UN/CEFACT Experts with broad knowledge and experience in the area of XML message design and related activities. Experts are expected to contribute to the work based solely on their expertise and to comply with the UN/CEFACT Code of Conduct and Intellectual Property Rights policy.

## **6. HoD support**

N/A

## **7. Geographical Focus**

The geographic focus of the project is global.

## **8. Initial contributions**

1. Core Components Technical Specification – Part 8 of the ebXML Framework, Version 2.01
2. Core Components Business Document Assembly Technical Specification, CCBDA, version 1.0
3. UN/CEFACT XML Naming and Design Rules for CCTS 2.01 Version 2.1 dated 27 May 2014
4. Requirements Specification Mapping (RSM) Documentation Template Guidelines Version 2.0
5. Code Management User Guide

## **9. Resource requirements**

Participants in the project shall provide resources for their own participation.

The continued existence and functioning of the project team shall not require any additional resources from the UN/ECE secretariat other than:

- Establishing and maintaining the project team's Web site pages with appropriate links, document download facilities, and items of interest

## **10. Project Leadership**

The following project team is proposed:

Project Leader: TBD

Lead Editor: TBD

## **11. Milestones**

Yes/No	ODP Stage	Expected Completion Date (YYYY-MM-DD)
Yes	Project Inception	2018-12-31
Yes	Requirement Gathering	PI + 4 month
Yes	Draft Development	RG + 5 month
Yes	Public Review	DD + 2 month
Yes	Project Exit	PR + 1 month
Yes	Publication	PE + 1 month